

## 令和元年度 第2回黒松内町総合教育会議事録

1. 期 日 令和元年8月20日(火)  
午前11時00分から午後0時00分
2. 場 所 コミュニティ防災センター 町民活動室1
3. 出席者 (構成員)
- |         |         |
|---------|---------|
| 町 長     | 鎌 田 満   |
| 教 育 長   | 内 山 哲 男 |
| 教 育 委 員 | 池 田 重 人 |
| 教 育 委 員 | 成 田 志津代 |
| 教 育 委 員 | 岡 久 孝 雄 |
| 教 育 委 員 | 金 石 澄 子 |
- (事務局)
- 教育委員会教育次長 鈴木浩勝

### 本日の会議に付した事件

- (1) 黒松内町総合教育大綱の策定について(素案)
- (2) 当面する黒松内町教育課題について(協議)

## 会 議 の 顛 末

事務局 令和元年度第2回黒松内町総合教育会議を開催いたします。  
それでは、次第に基づき進めます。1番挨拶、鎌田町長より申し上げます。

町 長 おはようございます。今日は、お忙しい中、出席をいただきました。  
教育委員の皆様には、日頃、教育行政の推進に、大変なご尽力いただき、また、本日は、教育委員会に引き続きの開催となり、お疲れのところありがとうございます。  
心配しておりました台風は、雨も風を予想を下回り、ほとんど影響はありませんでした。  
昨日から、各地域の神社祭が始まりました。そこで、お話をお聞きしますと農作物の生育はまずまずとのこと。馬鈴薯は、これから本格的な収穫が始まるそうです。  
本日の議題は、第2期総合教育大綱の策定に当たり、前回の会議では骨子でありましたが、肉付けした素案を議題としております。先の教育委員会でご説明していると聞いております。第1期の大綱の検証もしながら、委員の皆様のご意見をいただき、策定を進めてまいります。  
簡単であります。開会の挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございます。

事務局 それでは、2番議題に移らせていただきます。町長に進行をお願いします。

町 長 1番目の議題は、黒松内町総合教育大綱(素案)の策定です。まず、事務局から説明ください。

教育長 黒松内町総合教育大綱(素案)の策定を説明いたします。  
「深く、強く、広い心の黒松内人」を育む(第1次素案)です。一部、訂正いたします。目次にあります黒松内町の現状と展望は、大綱には含めず検討資料としての位置付けとなります。  
目次の下段にあります大綱の役割のとおり、第2期の対象期間は令和2年度から6年度までの5年間です。  
1ページの第1章基本理念です。前大綱では全て文章でしたが、町民にとってより分かりやすいものにするため、町木のブナに例えて、根、幹、枝葉に分けて表記しており、心と体、つながりを示しています。第4期黒松内町総合計画には「まちを彩る」との文言がありますので、整合性をとるため、枝葉では木が育つと森が彩られることから、「木が育ち、森が彩られる」としております。幹の体の部分では、「本物に触れ、自ら学んで生きる力を高め、共に支えあう」、根の心の部分は、「育ちたい」を支える」とし、教育委員会では支える環境づくりをしたいと考えています。人口減少が進んでいることから、新しいシステムが求められています。

第2章基本方針では、前大綱をある意味踏襲しており、4番では環境づくりを謳っています。文化やスポーツ、ふるさとを愛する人材を育みますとあります。しかし、現実的には複数の団体が休止や廃止をする、大会の参加者数が減っているという状況は、想定できることですので、このことに合った環境づくりを行うものです。

5番の子どもの学びの環境や、生涯学び続けられる環境を整えますは追加した項目です。一つ目の教員の資質向上と子供と向き合う時間の確保の取り組みとは、働き方改革を指します。二つ目の学校運営協議会と地域協働本部は、今まで黒松内町で取り組みしていた皆で支える学校、皆で育てる子供たちは、コミュニティー・スクールとして実現するものです。三つ目は、ソサエティー5.0は情報を活用したスマート社会として、遠隔操作や遠隔医療、AI家電、自動運転、ドローンによる配達、キャッシュレスなどどんどん身近になってきます。今までとは違う社会に進む中で、学び直しが必要と考えています。また、小学校でのプログラミング教育もその一つです。4つ目は、全ての町民が生涯を通じて健康で生き生きと暮らし、生き甲斐を持ちながら能力を発揮できる環境を整え行きたいと考えております。

第3章施策体系は、基本理念と5つの基本方針に基づく関連施策等は、まとめ次第に、委員に提示していきます。第2次素案の提出前には、何度か資料提供し、ご検討いただきたいと思いますと考えています。

次の黒松内町の現状と展望では、第4次総合計画町民アンケートからの抜粋ですので、検討の資料としてご一読ください。

町長 教育委員会では、第1期教育大綱の検証はどのようになりましたか。

教育長 これから委員から、意見として出ると思います。

事務局 本町教育のめざす姿を、6区分による評価で検討しましたが、全体評価が困難でしたので、個別の事務事業について委員からは意見がありました。総合教育会議にて、再度、ご発言をいただきます。

町長 第2期総合教育大綱の策定に当たり、まず、第1期の評価のご意見をいただきたいと思います。全体や項目別、個別の事務事業単位でも結構です、いかがでしょうか。

委員① 以前、町長からこの場で、町内に学習塾がないこともあり、町営塾を開始したいとお話がありました。現在の町営塾は、町長が当初お考えしていたものと比べていかがでしょうか。

町長 学力の向上を目指したものとしておりましたが、実際に来ている生徒は、学力に個人差があると聞いています。そのため、同じ目標の設定できないのが問題であると感じています。ただ、学力が低い生徒も勉強を希望し申し込みしていることも大切にしたいですし、学力が高い生徒のみを対象にすることはできないと考えています。学力

別のグループ分けなどの方法もありますが、来年度までには、再度、方針をしっかりと立てたいと考えています。

委員① 当初、町長より説明いただいた内容と、実際の取り組みは違うと感じています。一部の生徒は、学びの場というよりも単なる居場所の一つになっています。例えば、基本方針には世界に目を向けて、国際的なコミュニケーション能力の向上とありますので、英語に限ったものとし、全員が英語の底上げをしていく。学びを求める子にとっては、現在の塾では騒がしく気が散るため、塾には行かないという状況になっています。教科を絞ることで、教える範囲は限られますので、学力差の対応としてグループ分けが可能になるのではないのでしょうか。

町長 学力に差があることは、塾を実施して分かったことです。金石委員が言われているとおり、教科を絞るや、グループ分けなどで学力を高める生徒のみを対象にすることも考えていきたいし、繰り返しになりますが、学力は低い学びの場として来ている生徒も大切にしたいと考えています。本当に、難しいです。

学力に差がありますので、小学校の学び方に課題があるのでしょうか。

近隣の町でも町営塾を行っていると聞いていますが、どのようなものですか。

事務局 民間の学習塾に委託しています。

町長 スクールカウンセラーは、継続していますか。適応指導教室は、どのような状況ですか。

事務局 スクールカウンセラーは、月1回実施しています。

適応指導教室は、正式な通級は1名、体験通級は2名で、中学生3名です。

ここで、教育委員会で委員から発言がありました内容の要点を説明いたします。

一つ目は、幼児からの学齢期までの切れ目のない一貫した教育の展開とあるが、学校間等で児童生徒の特性のしっかりとした引継ぎがされていないときがあるのではないかと。保育園から中学校までの12年間の一貫した子どもと関わる取り組みが重要である。

二つ目は、平和学習は、広島市訪問など日常では行けない場所、学ぶことができない機会であり、貴重な体験であるので、継続していくべき。

三つ目は、人口減少を見据えた中で、小中学校ではふるさと学習だけではなく、高校のサテライト校のような町外の学校や教育機関とつながる取り組みを行う。

四つ目は、5年前にはなかった町民のサークル活動が芽生えているので、引き続き、育てる環境づくりを行うなどの意見がありました。

町長 幼児期からの一貫した教育では、以前は幼児期は保健福祉課、就学後は教育委員会でしたので、なんとかしたいとの思いから、児童に係る業務を教育委員会に移動しま

した。教育委員会では、保育園や児童館との情報共有、連携をより強めてほしいとは考えています。

平和学習は、中学2年生が西予市との姉妹市町交流と合わせて行っていますが、今のやり方がいいか検証し、継続して行きたいと考えています。西予市には、生徒の体験等では対応をしていただいていますので、余り負担にならないようにしたい。

町外の学校との連携では、道内の私立高校と将来の人材確保・育成を目的とした協定を締結しています。道内の高校がない町村との協定であり、30余りの町村と結んでいると思います。協定に基づいた内容の範囲で、中学校とインターネットを活用した取り組みを検討する価値はあるのではと思います。また、この高校では、観光を中心とした町村と連携し、高校生が現地を見ながら学び、その地域にあった提案をする取り組みを、本年度、本町で行われます。私も、高校に行き、本町の観光やまちづくりを、ご紹介して来ました。委員の言われたサテライト校とは異なるかもしれませんが、近い取り組みになるのではないのでしょうか。

また、お母さんらによるサークルが生まれてきたことに、感謝しており、少額ですが補助金を設けていますので、これをきっかけとして広がっていくことを期待しています。

ハード面では、学校を含めた公共施設照明のLED化を実施しました。良い時期の実施と考えています。黒松内中学校には、教室だけですが、クーラーを設置することとしました。次は、小学校にという話があるかもしれませんが、オープンスクールの校舎でありますので、効果的な空調設備となるのかを十分検討しなければならないと考えています。

これからの教育のあり方では、ひとつの市町村だけではできないこともあると思います。例えば、町営塾では、近隣の町にいる大学生に協力をいただいておりますし、広域的に考えていくことも必要です。

教育長 広域的にということでは、今回、長万部町と豊浦町の3町で締結した「はしっこ同盟」は、後志と渡島と胆振の3つの地域の情報が入ってくる体制です。例えば、教育委員が集まり、教育を語る場をつくり議論する中で、共通な課題や独自の課題にふれる機会はどうでしょうか。

これからは、どうしても広域的になると思います。内を見ることも大切ですが、委員の言われるとおりに、外とのつながりを持つことも重要です。

教育は、システムや体制を作るだけではなく、その内容が重要ですし、取り組みを検証することも大事です。

大綱では、大まかな流れが見えればよく、町としての方向性を示していきたい。黒松内町のこれまでの取り組みで長く培われた価値を評価し、木で例えると、幹の部分の資質、能力、体をしっかり獲得し、枝や葉を広げていく。小学校低学年は根の部分であり、予算や能力を投入していく。

委員② 町営塾は、今、協力いただいている大学生だけではなく、他の大学生も活用しては

どうでしょうか。道内にある大学の野球部が、本町の野球場で夏休みに4日間の合宿を計画していたのですが、結局は既に予約が入っていたため、他の町で実施しました。その時に、部員が20名から30名いるので、練習が終わった夜に、集中的に子どもたちを対象に勉強を教えるはと考えました。このような関わり方もあると思います。

教育長 その期間は、協力いただいている大学生は夏休みで不在になります。子どもたちの学びの居場所づくりであったり、意欲の高め方、短期集中で行うことを検討することも必要かもしれません。

委員② 今の町営塾では、町長や委員①が言われるとおりに、クラス分けをしなければ、よく回らないと思います。そうすると、教える側の学生の人数が必要になります。

教育長 しなやかで強い幹を作る資質や能力、体を育むため、子どもの学ぶ環境は、ぜひ、整えていきたい。コンピューターが発達した今は、情報の発信者と直接、つながれる環境にあります。コンピューターは学びの場面だけではなく、知らなければ生活自体が立ちゆかなくなる時代です。

委員③ 子どもが落ちこぼれないようにと思う気持ちは、大人では皆さんが持っていると思います。ただ、落ちこぼれの基準は何なんだろう、一人ひとり違うと思います。小中学校で学ぶ勉強が分かる程度でよく、この学力があれば落ちこぼれと言えない。コンピューターが生活の中心になるという話がありましたが、本町ではICTの機器整備が早くにできたことは、すごく評価しています。

学力以外の力を育てるには、先輩の話を色々聞く機会が必要で、動物園の飼育員の話であったり、勉強で学んだことを活かした話や体験談を聞くことが、落ちこぼれの子どもの作らないことになるのではないのでしょうか。

私たちが作った方針が横に動くと、教える側もずれる。クラス分けはひとつの方法だと思いますが、目的を再度、検証し、軌道修正することが望ましいと思います。塾とはいかがの塾なのか、見えづらくなっています。

子どもたちの居場所は必ずあると思いますので、ある程度の学力を持って、自信につなげることで、根の部分である気持ちを持つことは大切であると感じます。

教育長 子どもが、そのような環境になるためには、保護者自身が学んでいる姿を見せることが必要です。読書好きな保護者がいる家庭では、子どもも読書好きになるという傾向があります。保護者だけではなく、地域全体が学ぶことに慣れている、意欲がある町を目指したい。

町長 町営塾は、来年度に向けて、どんな目的や狙いを持つのかを、教育委員会において整理することで、運営方法のアイデアが出てくると思います。

大綱(第1次素案)では、具体的な取り組みが書かれていませんので、正直、イメー

ジがわからないところがあります。第3章施策体系が空欄ですので、ここが整理されると見えてくると思います。

教育長 基本方針では根や幹の部分は、しっかり労力を投入していく。枝や葉の部分は、獲得した力をしっかり伸ばしていく取り組みも行っていきたい。大綱が出来、予算の確保を基に、教育行政執行方針に示していく。例えば、根に5の資金と労力を投入し、幹には3、枝葉には2を投入するとの表現を町民にも伝えて行きたいと思っています。取り組みでは、工夫や知恵、つながりなど予算がかからないことがこれから、求められると思います。

委員③ 予算を少なくしたことにより、方針が薄くなることもあるため、目的をしっかり持ってほしい。教育として、捨てられないものは絶対にある。

町長 予算は厳しい現状にあるので、全て取り組みをすることは出来ませんが、ポイントを絞り、重点的に予算配分することは可能です。そのため、どこに重点を当てるかは、委員の皆さんと議論して行きたいと思います。

今日だけでは、まとまりませんので、次回の総合教育会議にて、空欄部分を示していただき、継続して検討して行きます。

教育長 次回の総合教育会議までに、教育委員会がありますので、そこでも議論して行きたいと考えています。

委員② 大綱と町総合計画との関係性は、どのようになりますか。

教育長 基本理念は、総合計画と整合性をとっています。今後、総合計画実施計画が策定されますが、そこは大きく外れないと思いますが、関連施策等の細部は異なる表記があるかもしれません。重点をどこにするかが難しく、委員の皆さんにも取り組むところ、削るところを精査していただきたい。

町長 その他として、今後の予定はどうですか。

事務局 次回は、12月下旬に総合教育会議を開催します。

町長 大綱は、パブリックコメントを実施した上で、2月下旬には策定いたします。大綱以外で、皆さんから何か、ございますでしょうか。

委員等 ありません。

町長 本日は、大綱では具体的な内容までは至りませんでした。委員の皆さんと意見交

換が出来、良かったと感じています。より現実的なものを、作りたいと考えています。  
今日は、長時間にわたりありがとうございました。

委員等      ありがとうございました。